



|              |                                                                                       |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | アジア太平洋論叢 第21号 編集後記/奥付                                                                 |
| Author(s)    |                                                                                       |
| Citation     | アジア太平洋論叢. 2019, 21, p. 148                                                            |
| Version Type | VoR                                                                                   |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/100144">https://hdl.handle.net/11094/100144</a> |
| rights       |                                                                                       |
| Note         |                                                                                       |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 編集後記

「編集後記」と題してはいるが、筆者は本号の発送に携わる予定であるものの編集には関与していない。本号の編集を担われたのは、高山正樹・大阪大学名誉教授である。高山先生のご尽力に感謝申し上げたい。また、本号に寄稿して下さった皆様にもお礼申し上げたい。

僭越ながらもこの機会に筆者の雑感を記したい。現代アメリカ対外関係史を研究する筆者が、大学教員としての仕事を始めてから最初に書いた論文を掲載していただいたのが、本誌の前身の『大阪外国語大学 アジア学論叢』第4号（1994年）だった。のちに（16年後に）博士論文へと発展することとなる研究の最初の成果を発表したのも、この『アジア太平洋論叢』第9号（1999年）だった。つまり、太平洋地域をも包含する研究へとそのすそ野を広げる方向へと舵を切った「大阪外国語大学アジア研究会」の先見の明によって、筆者の研究活動がそれなりの軌道に乗ったということである。同会（その後名称は変わったが）と本誌が、筆者のような浅学のものを長きにわたって育ててくれたことに、この場を借りてお礼申し上げる。

さて本誌は、いよいよ本格的な「休刊」を迎えた。しかし、アジア太平洋地域にみられる解明すべき研究課題はつきなく、研究が終わりとなったわけではない。先輩の諸先生たちと若い世代に属する研究者の方々のさらなるご研究の発展とご活躍とを、心から願うのみである。（山田康博）

本号は旧大阪外国語大学川邊研究支援金の助成を得て刊行された。同研究支援金を設立して下さった川邊豊・靖子ご夫妻に本号を捧げたいと思う。

### アジア太平洋論叢 第21号

2019年2月28日 発行

編集兼 アジア太平洋研究会

発行者 山田康博

事務局 〒560-0043 豊中市待兼山町1-31  
大阪大学・国際公共政策研究科  
山田康博研究室

印刷所 (株)アイジイ

〒531-0072 大阪市北区豊崎4-6-3-415  
TEL 06-6371-0321